

平成29年度

島根大学大学院人文社会科学研究科修士課程

言語・社会文化専攻 言語文化コース

(第1次) 入試問題

【 英語学 】

(一般入試 A)

注 意

- 1 問題紙 5 ページ, 解答用紙 3 枚である。
- 2 指示があってから確認し, 解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 解答は, 解答用紙に清書すること。
- 4 問題紙は, 持ち帰ること。

【1】 つぎの英文を読み、設問に答えなさい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(Quirk, R. et al. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language* より (一部改変))

注: concord (一致), notional (意味上の), proximity (近接), plural (複数の), singular (単数の), prescriptive (規範的な), in defiance of (~を無視して), indefinite (不定の), noncount (数えられない)

(I) 主語と動詞の一致にかかわる3つの原則 (GRAMMATICAL CONCORD の原則, NOTIONAL CONCORD の原則, PROXIMITY の原則)はお互いにどういう関係にあるのか, 本文の内容に即して説明しなさい。

(II) 例文(3)で were, 例文(4)で was がつかわれている理由を, 本文の内容に即して説明しなさい。

(III) 例文(7)で is, 例文(8)で are がつかわれている理由を, 本文の内容に即して説明しなさい。

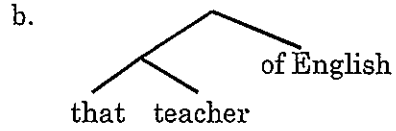
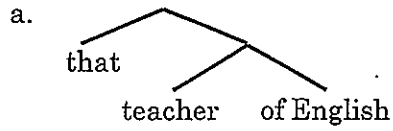
(IV) 著者によると, 本文の原則を拡張すれば, つぎの例で is をつかえるかどうかの違いが説明できるという(いずれの例でも正式には are をつかうほうが望ましい)。違いがどのように生じるのか説明しなさい。

(A) ?Where 's the scissors? [くだけた話し言葉ならばやや容認できる]

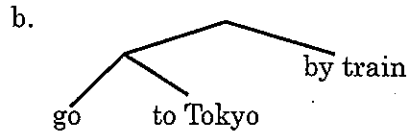
(B) ?*Is the scissors on the table? [容認できない]

【2】つぎの(I)から(III)にあげる句および文の構造は(a), (b)のいずれか、根拠を少なくとも1つ示して答えなさい。

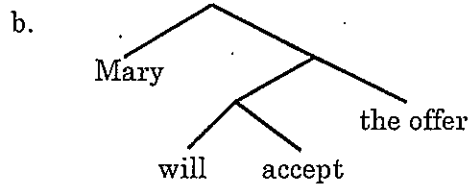
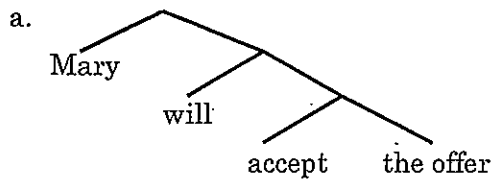
(I) that teacher of English



(II) go to Tokyo by train



(III) Mary will accept the offer.



【3】 つぎのリストから2つを選択し、それぞれの違いを、具体例をあげて説明しなさい。なお、解答は順不同でよい。

- (1) 項 (argument), 付加詞 (adjunct)
- (2) 主要部先行型言語 (head-initial language), 主要部後行型言語 (head-final language)
- (3) 非能格動詞 (unergative verb), 非対格動詞 (unaccusative verb)
- (4) 能動態 (active voice), 受動態 (passive voice)
- (5) 音節 (syllable), 拍 (mora)
- (6) 強勢アクセント (stress accent), 高さアクセント (pitch accent)
- (7) 直示 (deixis), 照応 (anaphora)
- (8) 発語行為 (locutionary act), 発語内行為 (illocutionary act)
- (9) ピジン (pidgin), クレオール (creole)
- (10) 古英語 (Old English), 中英語 (Middle English)